

読売新聞 令和2年(2020年)11月3日(火)

大切なこと 園児の勇氣に学んだ

大学生 南本 葵衣 20

(京都府城陽市)

幼稚園で教育実習を受けた。年少クラスを担当し、子どもたちの顔と名前を一生懸命覚えて、積極的に声をかけた。「せんせい！」と元気いっぱいに駆け寄ってくる子どもたちの姿が、うれしい。でも、全員がそうではなかった。

ある女の子は、目が合っ
て私がほほ笑んでも無表情
で、話しかけてくるでもな
かった。この子の様子に、
言いたいことがあっても自
分からは言い出せない子も
いるのだ、と気づいた。
目が合うのはそのサイン
だ。そばに行って声をか
け、「ちゃんと見ていますよ」
と伝わるように努力した。

そんなある日、その子が声
をかけてくれた。
「せんせい、パズルしよ」
とても小さな声。でも、
勇氣を振り絞って出してく
れただろう言葉が、心から
うれしかった。

子どもたち一人一人の性
格を理解して、その子に合
った接し方を見つけること
は簡単ではない。でもそれ
は、保育者にとってとても
大切なことだ。そう彼女が
教えてくれた。